# おだ かつひさPRESS ★みやまえKIDS★

## 子どもの学習環境の向上には、「学校図書館司書」の配置が欠かせない

横浜市では平成25年度から４年をかけて、すべての小・中学校と特別支援学校に「学校図書館司書」の配置を開始しました。週５日、週29時間以内の図書館常駐勤務で、さっそく、子どもたちが本に親しむだけでなく、資料を活用する力を育めるとの期待が大きいと聞いています。

私は従来から、自由な読書活動の場所として、学びの場所として、学校図書館は、子どもの育ちを支える重要な拠点である、との認識から、学校図書館の有効活用と専ら学校図書館に関する業務を担当する職員である「学校図書館司書」の配置を求めてきました。

学校図書館司書は、図書館の運営を統括する司書教諭と連携し、図書の購入、整理から調べ学習などの授業の支援まで、さまざまな実務に携わる「縁の下の力持ち」であり、学校図書館運営には欠かせない存在です。

川崎市はこれまで学校図書館司書ではなく、常駐ではない巡回型の「図書館コーディネーター」を活用してきました。「学校図書館担当職員」に対する文部科学省の定義があいまいなことを理由に、教育委員会は、月に１～２回程度、さらに1回の訪問で２～３時間程度しか滞在のできない巡回型の非常勤職員である「図書館コーディネーター」を「学校図書館司書」の代わりとしてきました。

市民の皆さんにもこの憂慮すべき現状をご理解いただき、地域の中で子どもたちの育ちを優しく見守る環境づくりに一層のご協力いただきたいと思うものです。

### 常駐体制が学校図書館を活気あるものに変える

なによりも学校図書館に「学校図書館担当職員」を常駐させる体制が重要なのです。川崎市では現在、本来の学校図書館司書の役割である、蔵書の構築やメンテナンス、さらに貸出業務などを、保護者を中心とする「図書ボランティア」や「中学校の図書委員」が行っています。学校図書館の事実上の管理運営を「図書ボランティア」に丸投げしている学校もたくさんあるのが現実なのです。

川崎市での学校図書館の図書購入費は、一校あたり年間約100万円を超える潤沢な予算です。この図書購入費を有効に活用するためにも、「学校図書館司書」の配置について、次期教育プランに反映するように新市長に強く求めています。保護者の皆さんからのご意見も頂きたいと思います。

司書の常駐により、個性に応じた読書と学習指導が可能に

## 市営住宅の建て替えに「コレクティブハウジング」を取り入れよ

現在、「第３次川崎市市営住宅等ストック総合活用計画」に基づいて、市営住宅の長寿命化と建て替えが進められています。

現在の市営住宅では、居住者の高齢化が深刻な状況です。入所世帯の半数以上が65歳以上の高齢世帯で、うち約半数が単身世帯です。毎年、近くの市営住宅の敬老会や災害時避難訓練などに参加させていただいておりますが、単身の高齢者が年々増えて、このままでは団地自治会の存続も危ぶまれる深刻な状況だと認識しています。

これまでは、建て替えで生まれる余剰敷地に「福祉施設用地」を確保することを実現してきました。しかし、市営住宅に集中している高齢化を緩和することも重要と考え、建て替えに際して、あらたに「コレクティブハウジング」の考え方を取り入れることはできないのか、川崎市に提案をしています。

「コレクティブハウジング」とは、私生活の領域とは別に共用空間を設け、食事、育児などを共にすることを可能した集合住宅のことです。

阪神・淡路大震災後、一人暮らしを中心とする高齢者のために、高齢者同士が助け合うことを前提として兵庫県営、神戸市営住宅などにコレクティブハウジングの導入が積極的に図られました。

高齢者だけでなく、異世代世帯の交流も含めて、市営住宅の建て替えを積極的に活用して、地域コミュニティーの活性化に貢献できると考えます。皆さん、いかがお考えでしょうか。

台所と食堂が居住者の交流の場となっています

Column 斬

## 福田新市長に物申す

### 選挙キャンペーンの内容と早くも食い違い！「選挙公約」をこんなにも気楽に考えていいのでしょうか！

福田のりひこ新市長は、今回の市長選挙での戦いについて「候補者の政策の違いが分かりにくいので、むしろそれぞれの候補者のどこに体質の違いがあるのかを争点化した」との趣旨の発言をしています。この「体質の違い」について、福田氏がたびたび象徴的に言及したのが、「官僚天下り市長にNO」「市民市長にチェンジ」「しがらみ市政をチェンジ」といった選挙公報にあるフレーズでした。選挙キャンペーンにあたっては、これが一定の市民の琴線にふれるキャッチフレーズでした。

**■「川崎市には官僚天下りはありませんでした」**

ところが、新市長誕生後初めての市民と議会に対する市政表明である「市政への考え方」には、「官僚天下り」や「しがらみ市政」などに関する一切の言及がないのです。

そこで12月定例会代表質問において「市の斡旋による天下り禁止を徹底する」との公約について「天下り」の定義を市長に質しました。すると「在職時と同額程度の報酬と退職金が支給される形態」との認識が返ってきました。川崎市では再就職に関する「指針」の運用があるため「退職金は支給されない」ことになっています。それで福田市長は「川崎市には『天下り』と称する再就職はありませんね」と発言を修正したのです。

本会議場での質疑で「指針で退職金が支給されないと規定されていることは知らなかった」との発言にいたっては、議場全体で失笑をかいました。

**■「県内一高い介護保険料からの脱却」とは「保険料を下げることではありません」とも**

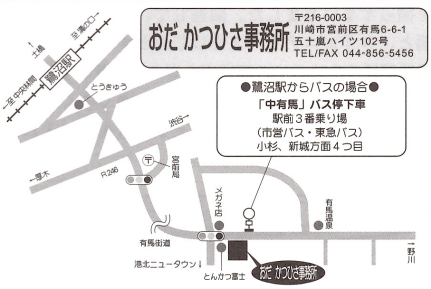
次に、介護保険料について、これも「市政への考え方」には具体的な言及がありませんでした。また選挙公約であった「県内一高い介護保険料からの脱却」とは「保険料を下げることではない」との見解が示されました。しかし、選挙期間中に多くの有権者は、「介護保険料が安くなる」ものだと理解していたと思います。

現行の第５期介護保険事業計画を平成23年度に策定したおり、市民からの要望がとても大きかった「特別養護老人ホーム」などの入所施設整備を計画的に進めるのが最大の課題でした。この施設整備を行うと介護保険料が高騰するという、まさに、二律背反の方程式をどのように解決したらよいのか、議会において連日のように真剣に議論したことを思い出します。

行政とともに市民のニーズを反映させて、現行の第５期介護保険事業計画を策定してきた議会からすると、福田市長から「介護保険料を特区制度で見直す」などと言及されても、政策的なリアリティーがないのです。少しでも早く具体像を示してもらいたいと思います。

市長と議員は、市政運営の車の両輪です。市民サービスに無用の停滞や混乱をもたらさないように、新市長のもとで、議員の市政への創造力が試されます。

おだ かつひさ事務所
〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1
五十嵐ハイツ102号
TEL/FAX 044-856-5456




### おだ かつひさ（織田 勝久）プロフィール

- ◆1961年幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学 法学部卒業（地方自治、都市政策専攻）
- ◆国会議員秘書を経て、2003年川崎市議会議員初当選。現在３期目。議会運営委員会副委員長。市議会環境委員会委員。議会運営検討協議会。
- ◆民主党川崎市議団副団長。ボーイスカウト川崎第54団所属、宮前区少年野球連盟顧問、宮前区ゲートボール協会顧問
- ◆尊敬する人物／ケネディ元アメリカ大統領
- ◆好きな作家／司馬遼太郎
- ◆妻、二男（20才と15才）の４人家族。有馬在住

URL http://www.odakatsu.com/